

株式会社マネーパートナーズグループ

東京証券取引所：プライム市場

証券コード：8732

2023年3月期第3四半期

決算説明資料

2023年2月6日

目次

| | | |
|-----|------------------------|------|
| I | 連結決算の概況 | P.4 |
| II | 当社の経営目標及び株主還元について | P.15 |
| III | プライム市場の選択及び計画書取組進捗について | P.18 |
| IV | 営業ハイライト | P.22 |
| V | 参考資料 | P.26 |



本資料は、株式会社マネーパートナーズグループの事業及び業界動向についての

株式会社マネーパートナーズグループによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確実性がつきまといっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社マネーパートナーズグループは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。本資料における将来の展望に関する表明は、2023年2月6日現在において利用可能な情報に基づきなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

I. 連結決算の概況

総口座数

355,911 口座

(前四半期末比 **2,758**口座 **増**▲)

取引高

3,482 億通貨単位

(前四半期比 **3.6%** **減**▼)

営業収益

1,538 百万円

(前四半期比 **11.4%** **増**▲)

経常利益

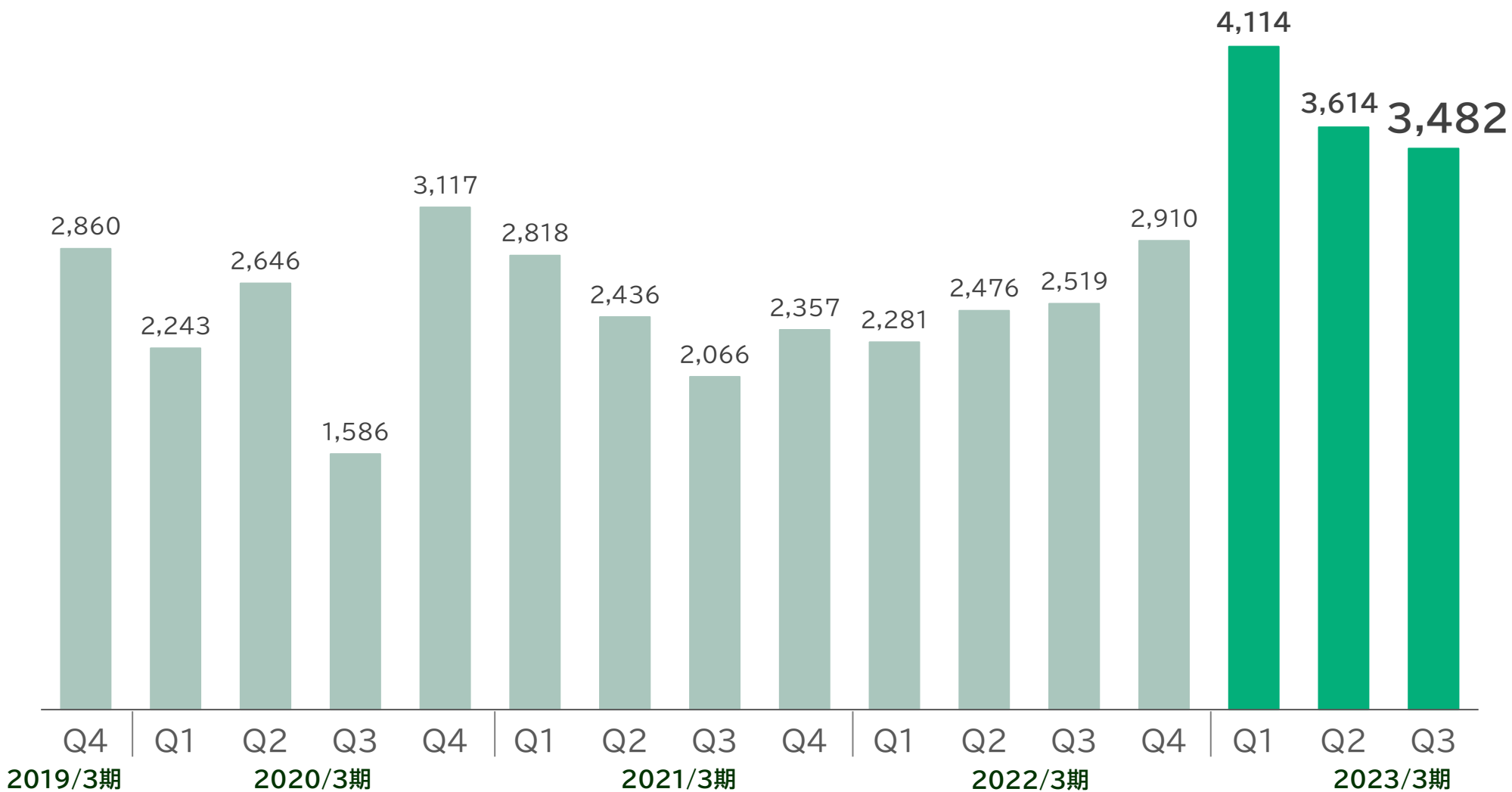
399 百万円

(前四半期比 **45.1%** **増**▲)



四半期連結業績推移

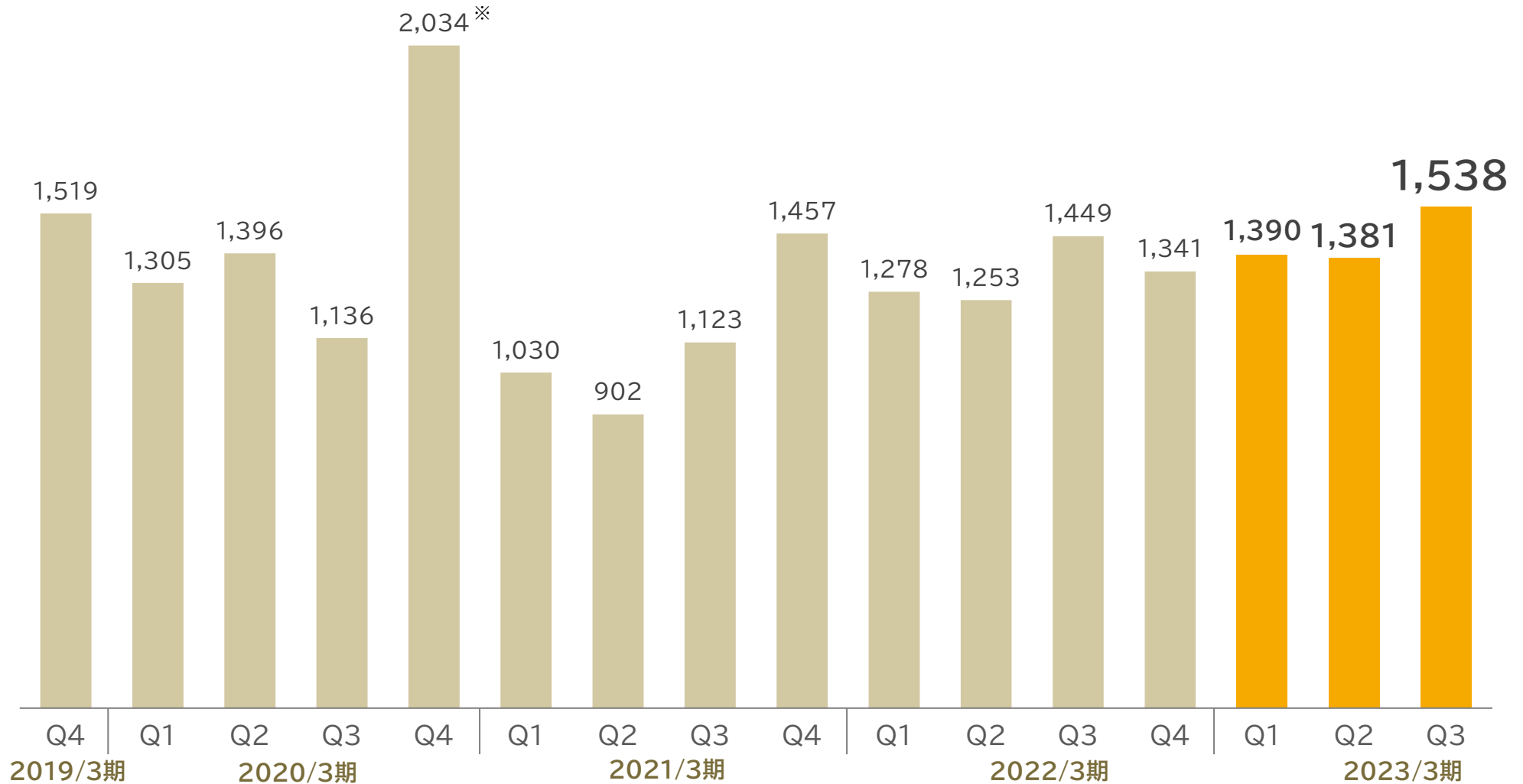
外国為替取引高 (単位:億通貨単位)





四半期連結業績推移

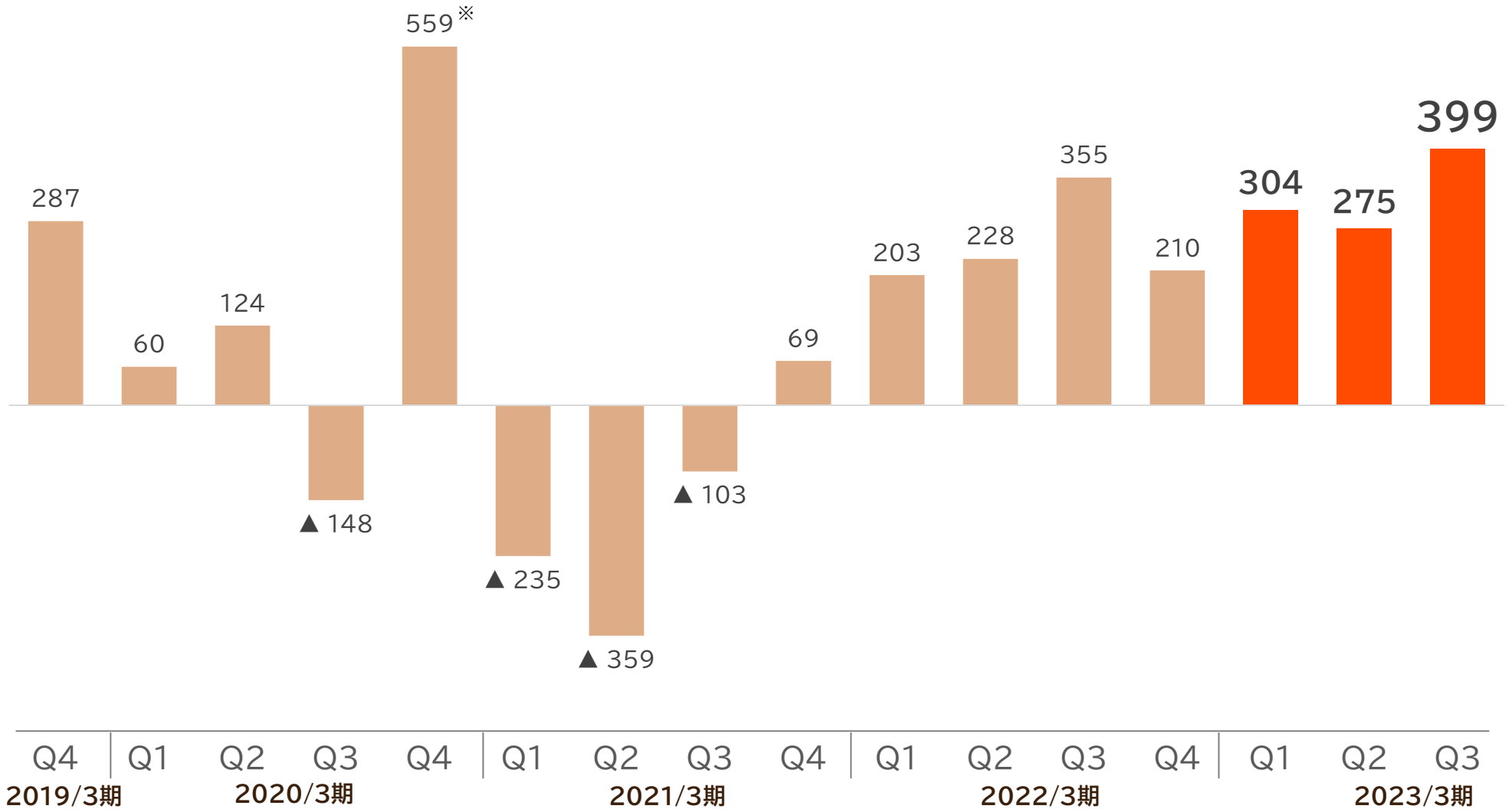
営業収益 (単位:百万円)





四半期連結業績推移

経常利益 (単位:百万円)



※2020年3月期Q4については、3月に新型コロナの影響を受け米ドル/円の月間の値幅が10円を超えるボラティルな展開となりました。その影響で営業収益は2010年5月以来である単月での10億円を超えとなりました。



2021年1月から2022年12月末までの市場の状況

2022年10月には32年ぶりとなる152円手前までドル買いが進むも為替介入により急激なドル高・円安が反転、11月には米利上げペース減速観測が広がり急落、さらに12月の日銀のYCC見直しによりドル安が進みました。

(単位:円) **米ドル／円チャート(週足)**

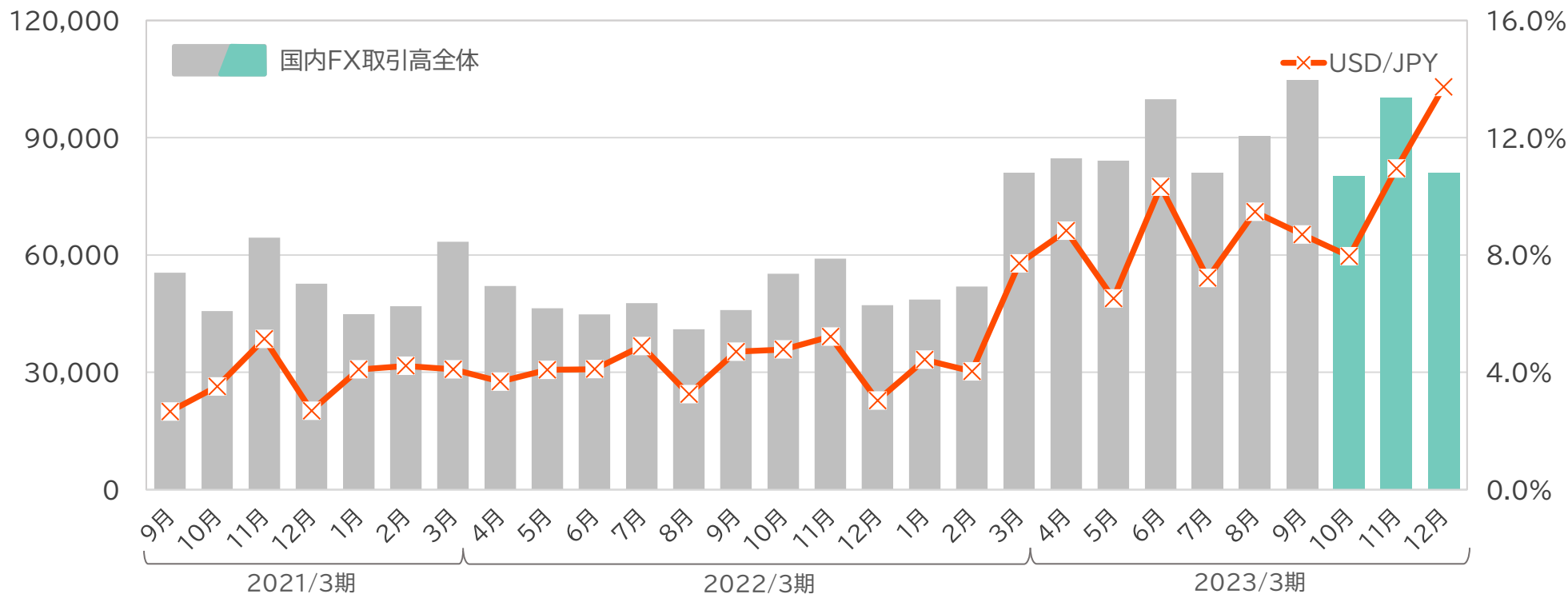
国内FX業者の取引高合計 (単位:1,000億通貨)



外国為替市場の動向

◇ 国内の店頭FX取引業者計49社による外国為替取引高合計及び米ドル／円のボラティリティ推移

(億通貨単位)



当四半期(2022年10月～12月)の米ドル／円のボラティリティは10月の急激なドル高・円安が進んだ152円目前での政府・日銀によるドル売り・円買い介入や12月の日銀によるYCC見直しによる相場の急変動もあり前四半期(2022年7月～9月)より高い水準となりました。

※ 国内の店頭FX取引業者計49社による外国為替取引高合計は金融先物取引業協会の発表する店頭FX月次速報をもとに記載しています。
米ドル／円のボラティリティは、日々のボラティリティを月間平均した数値を使用しております。

前四半期比決算概況 <2023年3月期 第3四半期(2022年10月~12月)と 2023年3月期 第2四半期(2022年7月~9月)の比較>

| | 2021/3期 | | 2022/3期 | | | | 2023/3期 | | 前四半期 対比増減 | |
|--------------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|--------------|--------|
| | Q3 (10月~12月) | Q4 (1月~3月) | Q1 (4月~6月) | Q2 (7月~9月) | Q3 (10月~12月) | Q4 (1月~3月) | Q1 (4月~6月) | Q2 (7月~9月) | | |
| 外国為替取引高 (億通貨単位) | 2,066 | 2,357 | 2,281 | 2,476 | 2,519 | 2,910 | 4,114 | 3,614 | 3,482 | ▲3.6% |
| 営業収益(百万円) | 1,123 | 1,457 | 1,278 | 1,253 | 1,449 | 1,341 | 1,390 | 1,381 | 1,538 | +11.4% |
| 経常利益(百万円) | ▲103 | 69 | 203 | 228 | 355 | 210 | 304 | 275 | 399 | +45.1% |

※外国為替取引高には「まいにち金・銀(CFD-Metals(差金決済取引))」、「まいにち暗号資産(暗号資産CFD(差金決済取引))」の取引高(原取引単位を米ドルに換算)を含めて表示しております。

損益影響ファクター

外国為替取引高

前四半期比 減少

◇ 前四半期に引き続きボラティリティが総じて高い水準で推移し外国為替取引高も高水準であったものの、前四半期との比較では3.6%の減少

営業収益

前四半期比 増加

◇ スプレッド0.0銭(売買同値)施策に加え、為替介入や日銀のYCC見直しなど相場が急変動する場面が多かったことからトレーディング損益が増加し11.4%の増収

営業費用

前四半期比 増加

◇ カバー取引関連の支払手数料や将来のコスト削減等を目的とした基幹システムのクラウド化に向けた費用としての器具・備品費が増加したこと等により3.2%の増加



四半期連結業績推移

(単位:百万円)

| | 2021/3期 | | 2022/3期 | | | | 2023/3期 | | Q3 (10月~12月) |
|----------------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
| | Q3 (10月~12月) | Q4 (1月~3月) | Q1 (4月~6月) | Q2 (7月~9月) | Q3 (10月~12月) | Q4 (1月~3月) | Q1 (4月~6月) | Q2 (7月~9月) | |
| 営業収益 | 1,123 | 1,457 | 1,278 | 1,253 | 1,449 | 1,341 | 1,390 | 1,381 | 1,538 |
| 受入手数料 | 8 | 10 | 9 | 11 | 9 | 8 | 8 | 9 | 10 |
| トレーディング損益 | 1,045 | 1,362 | 1,211 | 1,193 | 1,397 | 1,258 | 1,344 | 1,305 | 1,463 |
| 金融収益 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 5 | 10 |
| その他の売上高 [※] | 68 | 83 | 56 | 47 | 40 | 74 | 36 | 61 | 54 |
| 金融費用 | 42 | 79 | 26 | 25 | 23 | 69 | 25 | 22 | 22 |
| 売上原価 | 39 | 47 | 42 | 32 | 25 | 48 | 25 | 35 | 34 |
| 純営業収益 | 1,042 | 1,330 | 1,210 | 1,195 | 1,400 | 1,224 | 1,338 | 1,323 | 1,481 |
| 販売費・一般管理費 | 1,143 | 1,256 | 1,006 | 997 | 1,053 | 1,016 | 1,031 | 1,043 | 1,079 |
| 営業利益 | ▲101 | 73 | 203 | 197 | 347 | 207 | 306 | 280 | 402 |
| 経常利益 | ▲103 | 69 | 203 | 228 | 355 | 210 | 304 | 275 | 399 |
| 特別利益 | — | ▲0 | 24 | 2 | 4 | — | — | — | — |
| 特別損失 | 189 | 573 | — | 1 | 1 | 8 | — | — | — |
| 税金等調整前四半期純利益 | ▲292 | ▲504 | 227 | 229 | 357 | 202 | 304 | 275 | 399 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | ▲292 | ▲202 | 167 | 199 | 234 | 134 | 210 | 189 | 276 |

※その他の売上高にはシステム関連売上高を含んでおります。

四半期連結販管費推移(販管費内訳及び主要費目の推移)

主な増減要因 < 2023年3月期 第3四半期(2022年10月~12月)と
2023年3月期 第2四半期(2022年7月~9月)の比較 >

取引関係費 (増加): カバー取引関連の支払手数料の増加

不動産関係費 (増加): 将来のコスト削減のための基幹システムのクラウド化に向けた費用の計上

事務費 (増加): 中間配当関係費用の計上

(単位:百万円)

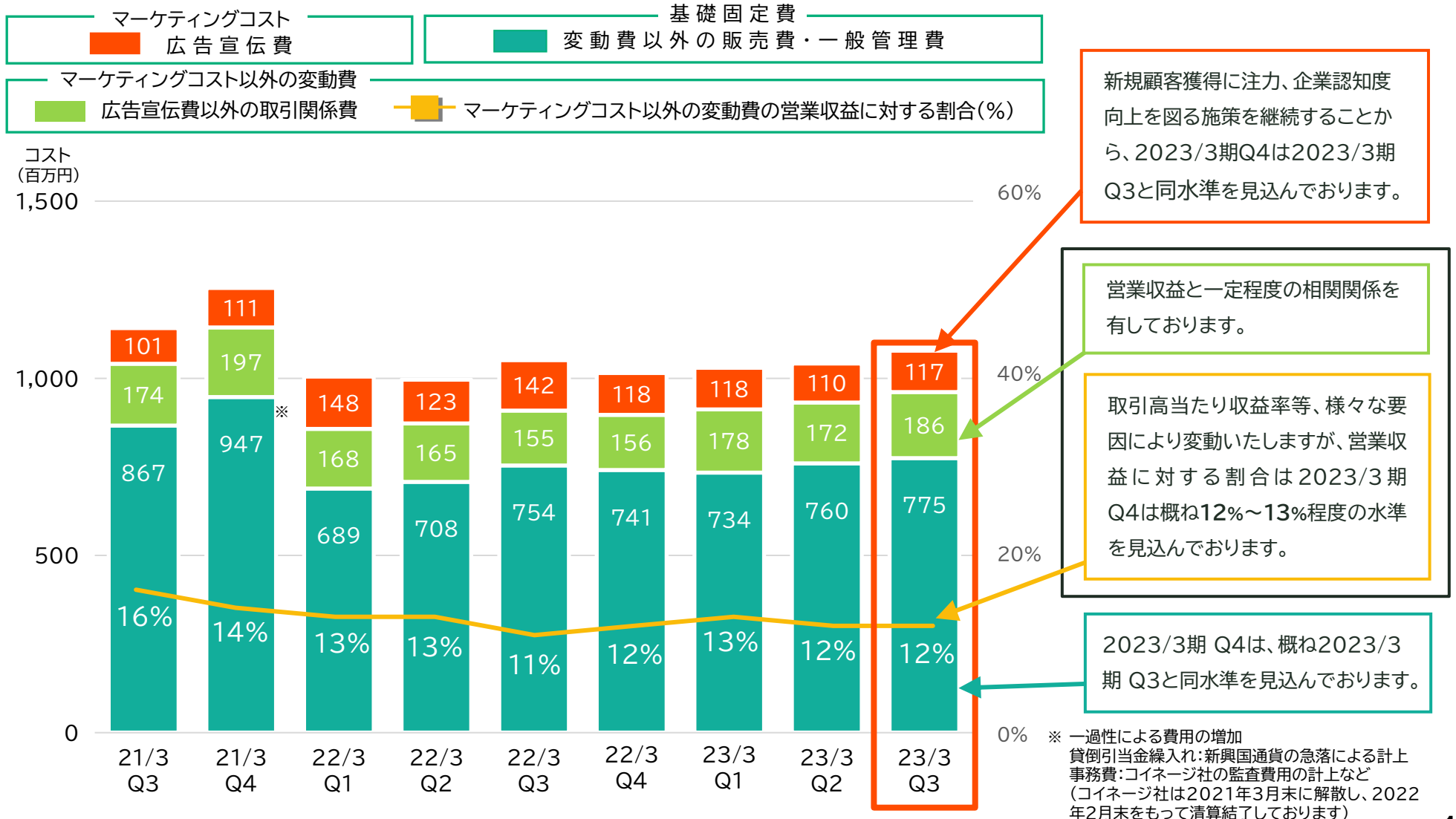
| | 2021/3期 | | 2022/3期 | | | | 2023/3期 | | 前四半期対比増減 | | |
|-----------------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|-----|--------|
| | Q3 (10月~12月) | Q4 (1月~3月) | Q1 (4月~6月) | Q2 (7月~9月) | Q3 (10月~12月) | Q4 (1月~3月) | Q1 (4月~6月) | Q2 (7月~9月) | Q3 (10月~12月) | 増減額 | 増減率 |
| 取引関係費 | 276 | 309 | 317 | 289 | 298 | 274 | 297 | 282 | 303 | +21 | +7.6% |
| 人件費 | 273 | 267 | 207 | 200 | 216 | 214 | 193 | 216 | 213 | ▲2 | ▲1.3% |
| 不動産関係費※ | 156 | 166 | 142 | 132 | 145 | 154 | 149 | 178 | 186 | +8 | +4.8% |
| 事務費 | 222 | 248 | 191 | 209 | 228 | 209 | 226 | 210 | 216 | +6 | +3.0% |
| 減価償却費 | 173 | 158 | 135 | 137 | 134 | 126 | 119 | 119 | 120 | +1 | +0.9% |
| 租税公課 | 22 | 12 | 22 | 25 | 21 | 23 | 23 | 24 | 27 | +2 | +11.5% |
| 貸倒引当金繰入れ | ▲0 | 74 | ▲26 | ▲6 | ▲1 | ▲1 | ▲0 | ▲1 | ▲1 | ▲0 | - |
| その他 | 18 | 19 | 17 | 8 | 9 | 13 | 23 | 12 | 11 | ▲1 | ▲8.0% |
| 販売費・一般管理費計 | 1,143 | 1,256 | 1,006 | 997 | 1,053 | 1,016 | 1,031 | 1,043 | 1,079 | +36 | +3.5% |
| (主要な費目) | | | | | | | | | | | |
| 広告宣伝費 (取引関係費に含まれる) | 101 | 111 | 148 | 123 | 142 | 118 | 118 | 110 | 117 | +6 | +6.3% |

※不動産関係費には、不動産費の他、器具・備品費が含まれております。



四半期連結固定費、変動費推移と今後の動向

全社を挙げてのコスト削減や不採算事業の改善・見直しを推進しており、さらなる筋肉質な会社へと変貌を遂げるべく取組みを進めております。



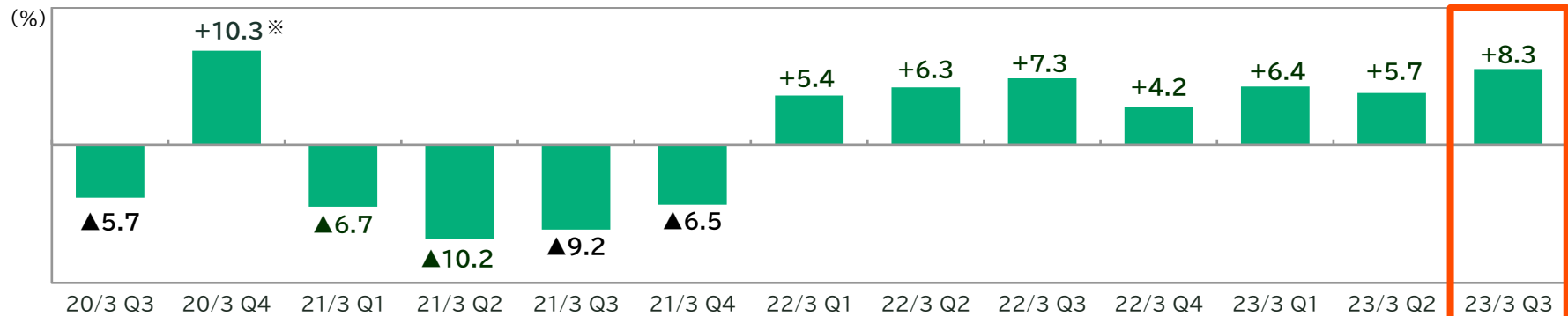
II. 当社の経営目標 及び株主還元について



当社の経営目標: ROE及び営業収益経常利益率の向上

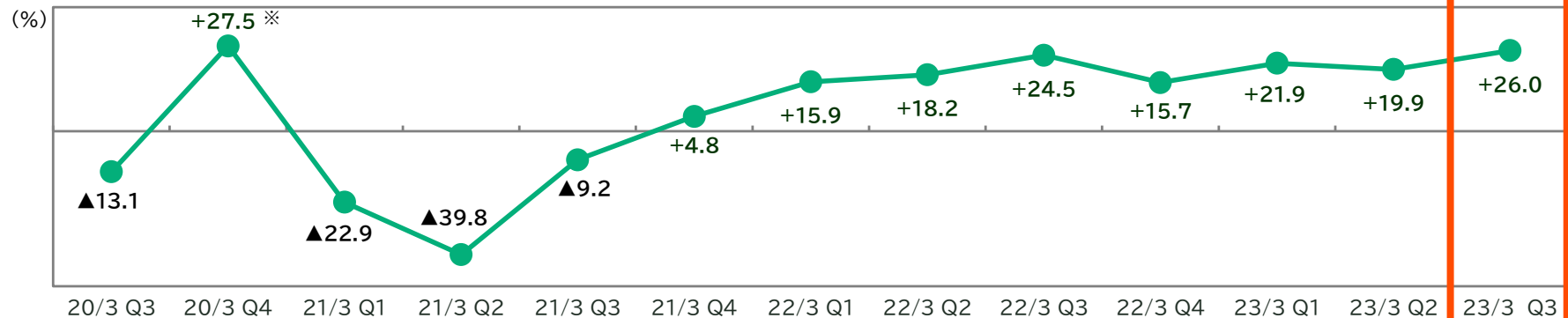
- 当社は、企業価値の最大化のため自己資本を効率的に活用することを重視しております。
- このために効率的な収益構造の実現を目指して参ります。
- 効率性を計る尺度として、自己資本利益率(ROE)及び営業収益経常利益率を重要な経営指標として位置づけております。

自己資本利益率(ROE)



(注)四半期ROEは、下記計算式により年換算して算出しております。
 $ROE(年換算) = (親会社株主に帰属する四半期純利益 \times 4) \div ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) \div 2) \times 100$

営業収益経常利益率



※2020年3月期Q4については、3月に新型コロナの影響を受け米ドル/円の月間の値幅が10円を超えるボラティルな展開となりました。その影響で営業収益は2010年5月以来である単月での10億円を超えとなりました。



配当方針

配当性向

親会社株主に帰属する当期純利益の

30% を 目 途[※]

※配当は、配当性向の目途を30%としつつも財務状況及び事業環境等を総合的に勘案して決定

配当機会

中間及び期末 (年2回)

| | | 2022年3月期 | | | | 2023年3月期 | | | |
|--------------------------|-------|---------------------------------|-----|---------------------------------|-----|---------------------------------|-----|--------|----|
| | | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円) | | 167 | 199 | 234 | 134 | 210 | 189 | 276 | — |
| 上段:3ヶ月 下段:累計 | | 167 | 366 | 601 | 736 | 210 | 399 | 675 | — |
| 配当金の総額(百万円) | | 122 | | 122 | | 122 | | 未定 | |
| 期末発行済 株式総数(株) | | 33,801,900 (内、自己株式1,202,301) | | 33,801,900 (内、自己株式1,202,301) | | 33,801,900 (内、自己株式1,202,301) | | — — | |
| 1株当たり 配当金 | 中間・期末 | 3.75円 | | 3.75円 | | 3.75円 | | 未定 | |
| | 年間 | 7.5円 | | | | 未定 | | | |

Ⅲ. プライム市場の選択 及び計画書取組進捗について

上場維持基準の適合状況 及び 基本方針

2022年4月に行われた市場区分の見直しに関して、2021年12月に**プライム市場を選択**する申請書を提出しました。

ただし、移行基準日時点（2021年6月30日）において、当該市場の上場維持基準への適合状況については、流通株式時価総額のみ基準を充たしていない旨の判定を受けております。

| 基準 / 市場 | プライム市場 | 当社の数値 |
|----------|--------|--------|
| 流通株式時価総額 | 100億円 | 54.4億円 |

(注) 2021年7月9日 付当社宛「新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一時判定結果について」より引用

上場維持基準を充たすために必要と想定される計画期間を、**2026年3月期末まで**としております。そのため、以下の数値目標を設定し、各種取組を着実に実行してまいります。

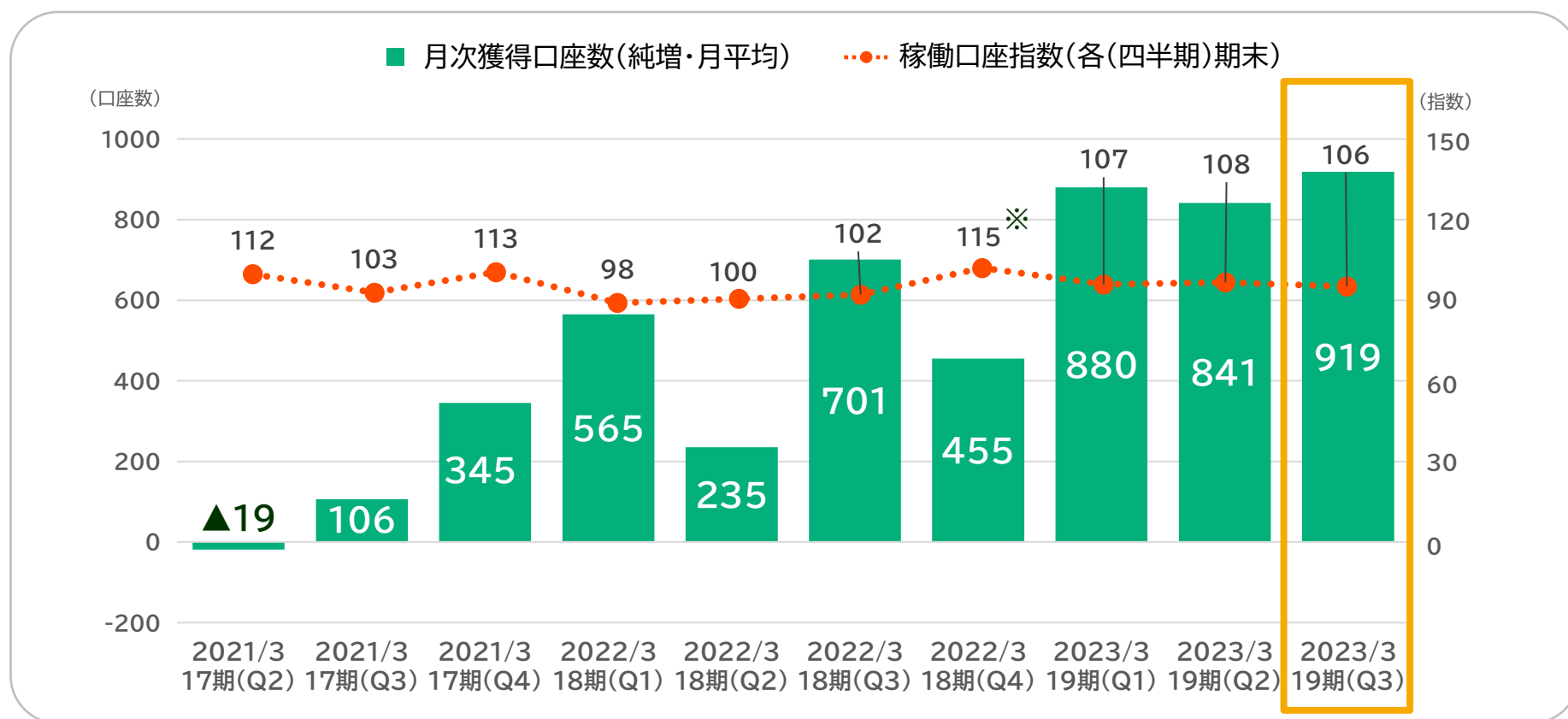
| 数値目標 / 年度 | 2026年3月期 | (ご参考) |
|-----------------|-----------|-------------------|
| | | 2023年3月期 (Q3累計実績) |
| ROE | 8%以上 | 6.8%※ |
| 営業収益経常利益率 | 20% | 22.7% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1,400百万円 | 675百万円 |
| EPS | 42.95円 | 21.18円 |
| 株 価 | 554円 | |
| 流通株式時価総額 | 11,720百万円 | |

※ 親会社株主に帰属する四半期純利益を年換算して算出しております。

■ 主な各種取組の進捗状況

達成目標 < 2026年3月期中 >

- ◇ 月次の新規獲得口座数 **2,000**件以上(月次獲得口座数(純増ベース))
- ◇ 稼働口座数の増加(2021年9月を100とした指数で**180**以上)



※ 2022年2月後半からのロシアのウクライナ侵攻によりマーケットのボラティリティが大きく変動し、当社FXサービスが注目を浴びたため

■ 主な各種取組の進捗状況

- 既に達成した課題
- ▲ 進行中の課題

| 課題 | | 取組 | 期日 | 進捗 |
|----------------|---|--|-------------------------------|---------------------------------|
| 業績の向上 | ● | 暗号資産CFDにかかるサービス開始 | 2021年12月6日 | サービス開始 |
| | | 現状のBTC、ETH、LTC、BCH/円に加え、さらなる銘柄の追加通貨を検討 | 2023年3月期中 | 検討中 |
| | ▲ | 将来のコスト削減に向けたシステム投資(クラウド移行等) | 2023年3月期以降を予定 | 進行中 |
| | ▲ | スマホアプリのリニューアル | 2022年3月期中 | さらなるUI/UXの向上とリリース後の品質管理の高度化に取組中 |
| コーポレートガバナンスの充実 | ● | 投資家向け決算説明会等の充実 | 2022年3月期末以降、コロナ禍の状況を見つつ再開 | 2022年5月より再開 |
| | ● | 英文開示資料の拡充 | 2022年6月より 定時株主総会狭義の招集通知を英訳 | 第18回定時株主総会招集通知の英訳を実施 |
| | ● | 取締役会の諮問機関として「指名、報酬委員会」を設置 | 2022年3月期中 | 2022年2月15日設置 |
| | ▲ | 投資家に対する情報開示の充実、IRサイトのリニューアル | 2022年3月期中 | 更なるセキュリティ機能の強化に取組中 |
| | ● | バーチャル併用(参加型)の株主総会の実施 | 2022年3月期にかかる 定時株主総会より実施予定 | 2022年6月開催の 第18回定時株主総会にて実施 |

IV. 営業ハイライト

III 営業ハイライト ① -業界最狭水準のスプレッド縮小施策の実施-

◆ 11月16日より パートナーズFXnano 業界初 計5通貨ペアにて原則24時間スプレッド0.0銭の提示を標準化

- ◇ 2021年5月よりパートナーズFXnanoの『米ドル／円』スプレッド0.0銭(売買同値)の提示キャンペーンを開始
- ◇ 2022年5月よりFX業界初の試みとして、原則24時間スプレッド0.0銭(売買同値)の提示キャンペーンの対象を パートナーズFXnanoの『米ドル／円』、『豪ドル／円』をはじめ計5通貨ペアに拡大
- ◇ 2022年11月16日から恒久的な取り組みとしてパートナーズFXnanoにてFX業界初 計5通貨ペアでのスプレッド0.0銭(売買同値)の提示を標準化



業界最狭スプレッドが11月16日から標準化！
nano (メンテナンス時間除く)
人気5通貨ペア24時間
0.0 銭
原則固定 (例外あり)
米ドル/円 (1万通貨まで)
ユーロ/円 (1万通貨まで)
豪ドル/円 (1万通貨まで)
ポンド/円 (5,000通貨まで)
メキシコペソ/円 (3万通貨まで)
※記載の数量を超えるご注文は適用時間・スプレッドが異なります

◆ 0.0銭以外の業界最狭水準スプレッド

- ◇ パートナーズFXでのお取引及びパートナーズFXnanoでの他の通貨ペア、大きな取引数量でも業界最狭水準スプレッドを提示
- ◇ 市場の流動性が高い17:00～27:00の間をゴールデンマネパタイムとし、『米ドル／円』をはじめ計16通貨ペアにて業界最狭水準スプレッドを提示中
- ◇ パートナーズFXではさらに、人気通貨ペアである『米ドル／円』、『メキシコペソ／円』の業界最狭水準スプレッド提示時間を『米ドル／円』は18時間に、『メキシコペソ／円』は13時間に大幅拡大中



PFX nano
ゴールデンマネパタイム
17:00~27:00は業界最狭水準スプレッド
1月4日～1月31日
MINKABU 2023 スプレッド部門 第1位

| 通貨ペア | スプレッド |
|----------|-------|
| 米ドル/円 | 0.2 銭 |
| ユーロ/円 | 0.5 銭 |
| 豪ドル/円 | 0.5 銭 |
| ポンド/円 | 0.4 銭 |
| メキシコペソ/円 | 0.1 銭 |

III 営業ハイライト ① -業界最狭水準のスプレッド縮小施策の実施-

『MINKABU FX会社年間ランキング』

「スプレッド部門」にて**2年連続年間第1位**を獲得

積極的なスプレッド縮小施策の実施によりマネーパートナーズは、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが運営している、『MINKABU FX会社年間ランキング』

「スプレッド」の項目において、**2年連続年間第1位**を獲得いたしました。



III 営業ハイライト② -スプレッド縮小施策以外の当社取組-

◆ 10月24日より新たに4通貨ペアの取扱を開始

- ◆ 国際決済通貨として注目の高まる『人民元/円』、『米ドル/人民元』
(『米ドル/人民元』はパートナーズFXのみのお取り扱い)
- ◆ 中東で注目の集まる『イスラエルシェケル/円』
(国内での取り扱いはマネーパートナーズのみ)※
- ◆ 北欧の産油国として注目されている『ノルウェークローネ/円』
- ◆ 現在パートナーズFXでは**全28通貨ペア**でお取引可能 (パートナーズFXnanoでは全21通貨ペア)



※ 一般社団法人金融先物取引業協会 2022年6月末時点会員 137社、特別参加者 4社を調査

◆ 様々な顧客向けキャンペーンの実施

- ◆ 当社所定の通貨ペアにて期間中に新規・決済を問わず一度でもお取引いただいたお客様に200円相当のギフトをプレゼントするキャンペーン
- ◆ 『米ドル/円』、『トルコリラ/円』等の当社の人気通貨ペアをお取引いただいたお客様に取引数量に応じたキャッシュバックを行う等、お客様への利益還元キャンペーン類を実施



| 通貨ペア | 対象通貨ペア | キャッシュバック額 |
|---------|--------|-----------|
| 米ドル/円 | 24銘柄 | 2円 |
| ユーロ/円 | 24銘柄 | 3円 |
| 豪ドル/円 | 24銘柄 | 3円 |
| トルコリラ/円 | 24銘柄 | 10円 |

◆ 著名講師によるセミナー実施などSNSによる新規集客へ注力

- ◆ 業界での著名な講師を招へいし、実践的な取引戦略を語るwebセミナーを実施
- ◆ 人気YouTuberとのタイアップ動画の制作等SNS施策へ注力



V. 參考資料



Money Partners Group グループ概要

株式会社 マネーパートナーズグループ

- | | | | |
|-------|------------------------------------|-------|--------------------------|
| 2005年 | …外国為替取引業を開始 | 2012年 | …東証2部へ上場 |
| 2007年 | …旧 大阪証券取引所ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」に上場 | 2013年 | …東証1部へ指定変更（FX主軸の会社初） |
| | | 2022年 | …東証プライム市場に移行（FX主軸の会社で唯一） |

(2022年3月31日時点)

| | |
|----------|---|
| 代表者 | 代表取締役社長 福島 秀治 |
| 連結子会社 | 株式会社マネーパートナーズ 株式会社マネーパートナーズソリューションズ } 完全子会社 |
| 主な事業内容 | マネーパートナーズ ・外国為替証拠金取引（FX） ・CFD取引（金、銀、暗号資産） ・証券取引 ・カード事業 マネーパートナーズソリューションズ ・システム開発業務 ・システム保守業務 ・システム運用業務 |
| 資本金 | 20億円 |
| 営業収益（連結） | 53億円（2022年3月期） |
| 純資産（連結） | 130億円 |
| 従業員数（連結） | 96人 |
| 上場市場 | 東証プライム（証券コード：8732） |
| 発行済み株式総数 | 33,801,900株 |
| 株主数 | 10,047人 |
| 事業年度 | 4月1日より翌年3月31日まで |

月次連結業績指標推移

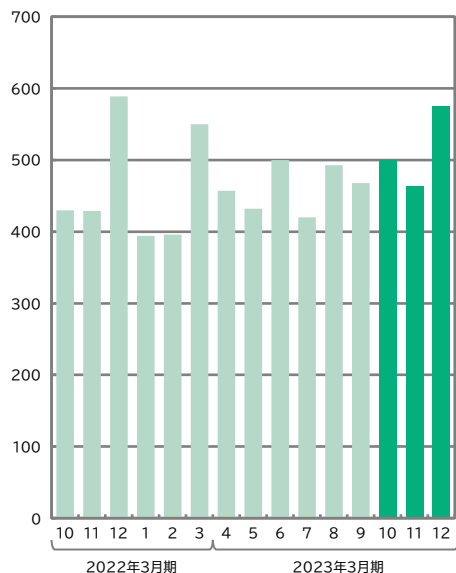
■ 月次連結営業収益、外国為替取引高、顧客口座数、顧客預り証拠金の推移

| | 2022年3月期 | | | | | | 2023年3月期 | | | | | | | | |
|---------------------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
| 営業収益(百万円) | 430 | 429 | 589 | 394 | 396 | 550 | 457 | 432 | 500 | 420 | 493 | 468 | 499 | 464 | 575 |
| 外国為替取引高 (百万通貨単位) | 90,593 | 95,217 | 66,099 | 73,976 | 82,802 | 134,241 | 130,806 | 139,280 | 141,401 | 113,223 | 119,648 | 128,574 | 113,350 | 127,232 | 107,703 |
| 顧客口座数(口座) | 344,755 | 345,482 | 346,625 | 347,287 | 347,437 | 347,991 | 348,893 | 349,810 | 350,630 | 351,580 | 352,358 | 353,153 | 354,034 | 354,921 | 355,911 |
| 顧客預り証拠金(百万円) | 55,503 | 54,426 | 53,911 | 54,402 | 53,808 | 55,068 | 56,841 | 56,680 | 57,597 | 57,397 | 58,239 | 58,842 | 59,781 | 58,087 | 53,578 |

(注) 1. 「外国為替取引高」及び「顧客預り証拠金」には2011年8月より開始したCFD-Metals(差金決済取引)に関する数値を含めております。
 2. 2022年3月より、暗号資産CFD取引(差金決済取引)における預り証拠金及び取引高(売買代金を米ドルに換算)はそれぞれ「顧客預り証拠金」、「外国為替取引高」に含めて表示しております。

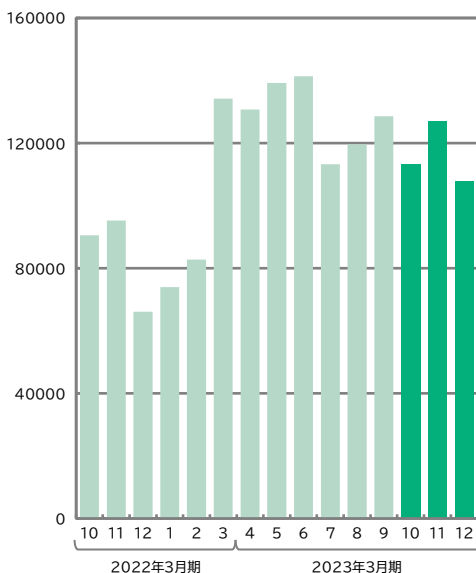
【営業収益】

(単位:百万円)



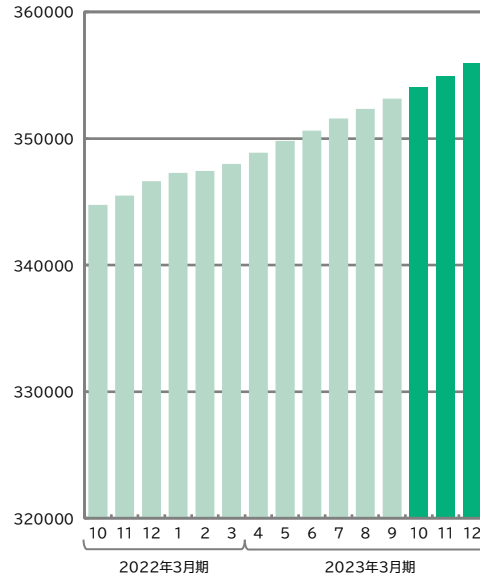
【外国為替取引高】

(単位:百万通貨単位)



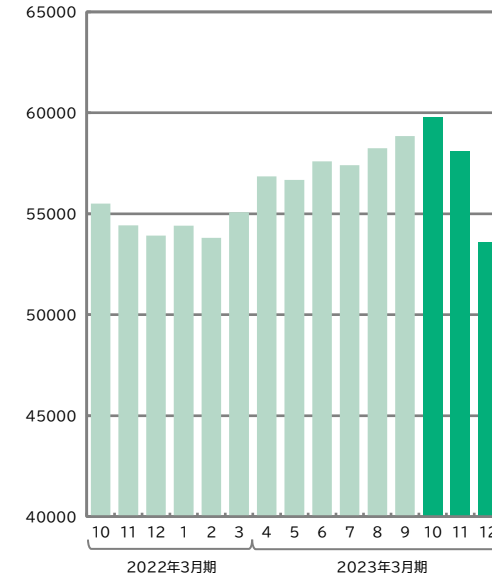
【顧客口座数】

(単位:口座)



【顧客預り証拠金】

(単位:百万円)





FX取引(外国為替証拠金取引)、商品CFD取引、証券取引、および暗号資産CFD取引(暗号資産関連店頭デリバティブ取引)に関するご注意

【パートナーズFXおよびパートナーズFXnano】

パートナーズFXおよびパートナーズFXnanoは、取引時の価格またはスワップポイントの変動、およびスワップポイントは支払いとなる場合があることにより、売付時の清算金額が買付時の清算金額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれがあります。また、証拠金の額以上の投資が可能のため、その損失の額が証拠金の額を上回るおそれがあります。売付価格と買付価格には差額(スプレッド)があります。パートナーズFXおよびパートナーズFXnanoの取引に必要な証拠金は、取引の額の4%以上の額で、証拠金の約25倍までの取引が可能です。法人コースの建玉必要証拠金金額は原則、一般社団法人金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの為替リスク想定比率を取引の額に乗じて得た額とします。為替リスク想定比率とは、金融商品取引業等に関する内閣府令第117条第31項第1号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。但し、一般社団法人金融先物取引業協会が為替リスク想定比率を算出していない通貨ペアにつきましては、一般社団法人金融先物取引業協会と同様の算出方法にて当社が算出した為替リスク想定比率を使用しております。取引手数料は無料です。なお、外貨両替については1通貨あたり0.20円、受渡取引については1通貨あたり0.10円の手数料をいただきます。

【CFD-Metals】

CFD-Metalsは、取引時の価格またはスワップポイントの変動、およびスワップポイントは支払いとなる場合があることにより、売付時の清算金額が買付時の清算金額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれがあります。また、証拠金の額以上の投資が可能のため、その損失の額が証拠金の額を上回るおそれがあります。売付価格と買付価格には差額(スプレッド)があります。CFD-Metalsの取引に必要な証拠金は、取引の額の5%以上の額で、証拠金の約20倍までの取引が可能です。

【証券】

国内上場有価証券の売買等に当たっては、最大で約定代金の2.75%の手数料(消費税込み)、最低手数料は取引形態等により異なり最大で2,750円(消費税込み)をいただきます。有価証券のお預りが無く、一定期間証券口座のご利用が無い場合等は、別紙 ①「手数料等のご案内」に記載の 証券口座維持管理手数料1,100円(消費税込み)をいただきます。国内上場有価証券等は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者等の信用状況(財務・経営状況を含む)の悪化等それらに関する外部評価の変化等を直接の原因として損失が生ずるおそれ(元本欠損リスク)があります。

【暗号資産CFD】

暗号資産は法定通貨(本邦通貨又は外国通貨)ではなく、特定の者によりその価値を保証されているものではありません。暗号資産は、代価の弁済を受ける者の同意がある場合に限り代価の弁済に使用することができます。暗号資産CFDは、取引時の価格の変動により、売付時の清算金額が買付時の清算金額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれがあります。また、証拠金の額以上の投資が可能のため、その損失の額が証拠金の額を上回るおそれがあります。売付価格と買付価格には差額(スプレッド)があります。暗号資産CFDの取引に必要な証拠金は、取引の額の50%以上の額で、証拠金の約2倍までの取引が可能です。取引にあたり、営業日をまたいで建玉を保有した場合にはレバレッジ手数料が発生します。

取引開始にあたっては契約締結前書面を熟読、ご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願い致します。

〈商号〉株式会社マネーパートナーズ(金融商品取引業者・商品先物取引業者)

〈金融商品取引業の登録番号〉関東財務局長(金商)第2028号

〈加入協会〉日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 日本商品先物取引協会 一般社団法人日本暗号資産取引業協会

株式会社マネーパートナーズグループ

東京証券取引所：プライム市場

証券コード：8732

2023年3月期第3四半期
決算説明資料

2023年2月6日